

特定非営利活動法人

おかやま人権研究センター・ニュース

発行 センター事務局 2012. 2. 10 第17号

「岡映の綱領路線」

岡映研、詳細な水島報告

1月9日13時30分から、岡山民主会館で、水島さんの報告がありました。岡さんの指導に係わる二冊のパンフ「綱領はなぜ大切か」の比較検討です。ちなみに、旧版は1965年8月発行であり、新版は1975年12月発行です。そのポイントは、「浅田、松井派の『反共、暴力、利権あさり』」に対する激しい批判であるということが出来ます。それこそが、「国民融合論」の大きな柱だと云えるでしょう。

問題は、「国民融合論」のもう一つの大きな柱ともいうべき、「独占資本元凶論」批判について、新版がどのような立場を取っているかです。この点については、新版発行の前年から岡映をも交えて始められた北原泰作を中心とする懇談会や、北原＝榊対談で、部落差別の元凶として独占資本を考えることに対する批判が明確になっています。

この懇談会にも加わっており、また著名な北原＝榊対談も見ているはずの岡が、75年の12月になって発行される綱領解説において、この柱「独占資本元凶論」については、独占資本による部落差別の利用については語るものの、それが部落差別を引き起こしていることまでの指摘は見あたりません。これをどう解釈したらよいかが、この新旧パンフを理解する場合のポイントになります。

水島報告は、その点には深く立ち入るこ

となく、取り分けての言及がないことからして、岡さんには、融合論についてとくに異論があったとは考えられないとされました。

研究会の席上では、やはりその点が問題となり、さらに検討することとなりました。ひとつの大きな問題は、それでは、そもそも部落差別の根本原因は何なのだろうかということです。また、その点を岡さん自身はどう考えていたのか、という問題もあります。

この点をどう考えたらよいかについて、引き続き水島さんの報告をお願いすることとなりました。

「現在」研、議論白熱

1月7日(土)、13時半から、「TPPと自然エネルギー」と題して研究会が開かれました。宇野さん、榊原さん、小畑さんの3人が、それぞれの立場から、報告し、そのあとで、三者が討論するという形ですすめられました。

宇野さんは、PTTの日本経済にとっての打撃的な影響について報告され、榊原さんは、岩手県葛巻町の自然エネルギー利用の経験を報告され、小畑さんは、現在のグローバル化の状況のなかでの日本経済の方向について、問いかけました。議論が白熱したことはいうまでもありません。